



NPO法人こどもとむしの会

平成28年度（2016年度）事業報告書

## A 子どもと虫に関連する普及啓発事業

### A-1 いどうこんちゅうかん

昆虫館や博物館に出かけるチャンスのない子どもたちのもとにも、「ほんものたいけん」を届けます。

平成28年度は20ヶ所で開催しました。神戸市児童館派遣事業は23年度から6年目です。（吉岡）

#### 平成28年度（2016年度）いどうこんちゅうかんの内容

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
6月18～ 19日	あさご芸術の森 美術館（朝来 市）	小学生7人	近藤・八木・占 部・菅澤・吉岡	あさご芸術の森美術館のプログラム「チャイルドア ートキャンプ」のむしとりとおえかきを担当。午後 の採集と夜間採集で採れた虫を翌日描く。生きた虫 だからこそ生き生きとした作品ができあがる。
6月25・ 26日	仙台卸商センタ ー・サンフェス タ（宮城県仙台 市）	1日目 約850 人 2日目 約620 人（子どもの み） フェス来場者約 6300人（2日 間）	清水哲哉・川 崎・菅澤・中 谷・吉岡	こども☆ひかりの「ミュージアムキッズ！全国フェ ア」に参加。全国から50を超える博物館・美術館が 結集。中でも「いどうこんちゅうかん」はすごい人 気。フェス前は雨が続き、カヤ虫が採れなかった が、清水さんをはじめ、むしの会のみなさんが採っ て下さった蝶やトンボで豪華なカヤとなり、仙台や 近隣の県から来た子どもたちにとってもよろこんでも らえた。
7月2日	あさご芸術の森 美術館（朝来 市）	子ども 約50 人・大人約80人	近藤・八木・徳 平・宇野・中 谷・吉岡	あさご夏の昆虫展の「出張むしむし大集合！」にゆ めはく号と共に参加。室内では近藤さんの「おえか き」屋外では「いどうこんちゅうかん」。最後は子 どもたちのトンボとり大会となる。
7月30～ 31日	あさご芸術の森 美術館（朝来 市）	キャンプ参加者 （小学生）24人 むしむしたい けん約70人	近藤・八木・阪 上・徳平・吉岡	チャイルドアートキャンプ第2弾。午後は夏らしい虫 を採集。夜は燈火採集。翌日はおえかき。楽しい作 品がいっぱいできあがる。
8月3日	神戸市立有瀬児 童館（西区）	小学生22人	近藤・吉岡	直接依頼での「むしのおえかき」 昨年の長坂コーナーでの「おえかき」のようすを見 た館長からの依頼で実現。夏休みの宿題の作品がで きあがる。
8月4日	神戸市立神出児 童館（西区）	小学生20人	近藤・吉岡	直接依頼での「むしのおえかき」 昨年秋の開催で子どもたちや父兄からの評判がよか ったので今年もとの2度目の依頼。子どもたちも楽し みにしてくれていて集中した力作がたくさんできあ がる。作品を児童館中に貼ってみんな満足げだった。
8月7日	しあわせの村/ 温泉健康センタ ー玄関ホール （北区）	約150人	近藤・中瀬・宇 野・中谷・吉岡	5年目の開催。プール帰りの子どもたちの他、チラシ を見てきたという家族や毎年来ているという子たち も多くなってきている。同じ場所での継続の大切さ を感じる。

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
8月8日	鳴尾北小学校育成センター（西宮市）	小学生94人・大人10人	近藤・清水・阪上・宇野・吉岡	西宮の育成センター（児童館）での初めての「いどうこんちゅうかん」。3館合同で少し混乱。『むしむし小話』からはじまっのフルメニューで楽しんでもらう。
8月22日 （午前）	神戸市立御影北児童館（東灘区）	小学生56人・幼児2人・大人8人	中峰・小林・宇野・中野・中谷・能勢・吉岡	8月22日・24日・25日の3日間は神戸市児童館派遣事業。今年も高倍率の抽選で当たった6館へ行く。高温が続くセミもいないのでカヤ虫の確保に苦労する。子どもたちは楽しそうだった。
8月22日 （午後）	渦森台児童館（東灘区）	小学生54人・中学生1人・幼児4人・大人10人	中峰・小林・宇野・中野・中谷・能勢・吉岡	午後は神戸の街が見渡せる高台にある児童館。タペストリー紹介は中谷さん。学生の話は子どもたちの反応がいい。みんなとても楽しんでたと先生方。（神戸市児童館派遣事業）
8月23日 （午後）	神戸市立桃山台児童館（垂水区）	小学生90人・幼児9人・大人19人	近藤・小林・宇野・能勢・吉岡	直接依頼による7年目の開催。今年から普通メニュー。午前中に子どもたちが採ってくれたセミをカヤに放す。子どもたちののびのびしたいい表情が印象的。質問もたくさん出る。
8月24日 （午前）	神戸市立住之江児童館（東灘区）	小学生36人・幼児1人・大人7人	中峰・宇野・能勢・牧田・中谷・吉岡	今日もカンカン照り。東灘にはセミの声がない。小話・タペストリー紹介・カヤ・生き虫・ぬりえ・3D写真の定番メニューも安定してきている。生き虫を見る子どもたちの目はワクワクでいっぱい。学生の評判も上々。（神戸市児童館派遣事業）
8月24日 （午後）	神戸市立魚崎児童館（東灘区）	小学生92人・大人19人	中峰・宇野・能勢・牧田・中谷・吉岡	魚崎コーナーの21人も参加するので2部に分けての開催。『むしむし小話』は子どもたちもノリノリ。むしの口クイズにたくさん手が上がる。2部に分けたので時間がタイトだったが子どもたちはとても楽しんだと館長から後日聞く。（神戸市児童館派遣事業）
8月25日 （午前）	神戸市立二宮児童館（中央区）	小学生41人・幼児3人・大人4人	近藤・阪上・宇野・中谷・吉岡	今年の「むしむし小話」は大学生の宇野くんの『むしの口の話』。4種類の口があるよという話。自作の絵もわかりやすく、クイズもおもしろい。この夏フル参加の宇野くん。話もだんだん上手になる。子どもたちに人気のコーナーである。（神戸市児童館派遣事業）
8月25日 （午後）	神戸市立灘コーナー（灘区）	小学生49人・大人7人	近藤・阪上・宇野・中谷・吉岡	灘コーナーでは子どもたちから36問の質問が事前に用意されていた。虫への関心の高さがうかがわれる。（神戸市児童館派遣事業） 今年の派遣事業の参加者：6館で397人（小学生328人・幼児10人・大人12人・児童館スタッフ47人）
9月22日	ルネサンス棚倉/インドアテニスコート（福島県棚倉町）	体験者200人/来場者500人	清水・小林・宇野・吉岡	「こども☆ひかりひよこミュージアム in たなぐらまち」に参加。近くに博物館がないことから白河や郡山からの来場者も多かった。小さな子どもたちが楽しんでくれた。

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
9月12日	国立淡路青少年交流の家（南あわじ市）	69人（子ども30人/20家族）	阪上・徳平・川崎・中野・吉岡	昨年と同じく、親子チャレンジ「あわじで虫とり名人になってシーカヤックにも挑戦！」という企画の『虫とりに挑戦！』を担当。吹上浜で2チームに分かれて採集。31種273匹を採った。 採集後は研修室でおえかきもする。
10月22日	ひょうご環境体験館（佐用町）	子ども17人・幼児6人・大人 16人	八木・中瀬・宇野・吉岡	3年目の実施。虫好きの子どもたちや家族が申し込み形式で集まる。リピーターも多い。今年は近くの草原でのむしとりから始める。
11月7日	神戸市立桃山台児童館（垂水区）	小学生（1～3年生）27人・中学生（トライやるウィーク）5人	近藤・吉岡	「むしのおえかき」も3年目。「大人は横から何も言わず、子どもにのびのびと自由に描かす」。子どもたちの集中した観察により今年もすばらしい159匹の虫ができてあがる。
11月14日	神戸市立長尾学童コーナー（北区）	小学生（1～3年生）37人	近藤・吉岡	近藤さんの「むしのおえかき」の「いどう」版を小学校の音楽会の代休（月曜日）に実施。大きな画用紙にたくさんのカラフルな虫238作品ができてあがる。おしゃべりしながら楽しそうに描いていた。
4月30日	神戸大学瀧川記念会館	約300人	前田慈・宇野・中野・船元・阪上・徳平・脇村・吉岡	第5回「ムシのお話5つ星レストラン」にて、生き虫展示とカヤを担当。今年は幼児～低学年の参加者が多く、たくさん子どもたちが大学での休日を楽しんでいた。



## A-2 むしむしたいけん

兵庫県立人と自然の博物館主催のオープンセミナー「むしむしたいけん」を、共催した。

2016年8月13日～20日

（吉岡）

## B 地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究事業

### B-1 神戸市北区のチョウ類調査

新名神高速道路計画路線が神戸市北区道場町を通過するにあたり、工事施工前・工事中・工事完了後にかけてギフチョウの生息状況及びチョウ類相の調査を行い、同工事による環境の改変が及ぼす影響を評価するとともに、必要であれば保全対策等についての提案を行う。調査は平成22年4月から開始され、平成28年度は6年目となる。

(吉田・近藤)

調査月日	調査内容	調査方法
4月6日	ギフチョウ	任意採集法
4月11日	成虫確認調査	マーキング法
4月15日		
5月12日	ギフチョウ	カンアオイ群落における探索
5月18日	卵・幼虫確認調査	
4月19日	チョウ類群集の モニタリング調査	ルートセンサス法
5月20日		定点観察法
6月14日		
7月19日		
9月9日		

### B-2 昆虫雑誌「きべりはむし」の編集発行

2016年度に発行した『きべりはむし』の概要

#### きべりはむし 第39巻 第1号

- ・2016年12月25日発行
- ・頁数47、報文10編、短報8編

#### きべりはむし 第39巻 第2号

- ・2017年3月25日発行
- ・頁数78、報文10編、短報9編

(中峰)



## C 昆虫館等の運営支援事業

### C-1 佐用町昆虫館の管理運営

#### ■入館者

今年の昆虫館の入館者は、休館日利用と講座等を除いた4月初めから10月末までの純粋な入館者数が4584人と、過去最高となった。13年の3669人、14年の3477人、昨年の4027人と比べると一目瞭然。講座等を加えると4778人となり、2012年の4857人に次ぐ。休館日利用は野村先生担当の佐用町の小学校だけだった。

4月から通して順調で、これまでの年は天候などにより入館者ゼロの日もあったが、今年は皆無。リピーターが中心だが、「初めて」「知らなかった」という人も増え、今後に期待できる材料となっている。活動したスタッフの数を加えると、延べ5060人に。

開館から、まる8年。私たちのやり方が着実に、来館者の心を捉えている。立派な建物に大きな網舎を備えた都市型の昆虫館とは違って、自然の中で自由に虫やイモリ、カタツムリ、草花と触れ合い、個性豊かな一日館長、サブ館長と過ごす時間の素晴らしさだろう。体力、知力に加え、命とのふれあいの場だけに、「虫のお絵かき」等、徳育にも少なからず影響を与えているようだ。

#### ■活動の特徴

新入会員が、一日館長、サブ館長、スタッフとして活躍し、昆虫館に携わる多くが、充実した時を子供たちと共にしている。

災害から立ち上がった2010年以来続けてきた「こども昆虫道場」も、今年は5回開催し152人が、より突っ込んだ体験をした。その一方で、グループではなく、個人を対象にした昆虫標本づくりも人気で、「飼っていたクワガタが死んだ」と標本を持ち込み、一日館長、サブ館長の指導を受け、思い出を形にするケースも。今期で昆虫道場が終了することもあり、来年度からは個人指導を徹底したい。「標本づくりマエストロ（名人）」を検討している。

クワガタ、カブトムシの生体展示に力を入れており、カブトムシ340匹を網舎に放した。来夏に向け1000匹ほどのカブトムシの幼虫を飼育中だが、一方で、その経費が跳ね上がっている。各種の経費節減をさらに推し進めないと、活動が難しくなり、大きな課題となり始めている。

#### ■地域活動

「佐用町あつての昆虫館、地域あつてのNPO」を合言葉に、2年後の10周年に向けて、「地域と共にある昆虫館」づくりに励んでいる。地元船越の皆様とは、4月の「むし開き」、10月の「むし納め」に、地元野菜やお米、お餅やケチャップなどの生産物の販売をさせていただいている。さらに今年は「むし開き」「むし納め」の2回とも、船越地区で「ふれあい喫茶」を開いていただき、おでんやお弁当をごちそうになり、交流を深めた。町外のボランティアが、地元ボランティアにお世話になる。いい関係ができ、絆が力を増している。

夏休みに入った最初の日曜日には、若鮎ランドの「ひまわり祭り」に出展。5回目の今年は、2000人を超す参加者を得た。

#### ■PR活動

昆虫館パンフレットを刷新。地域の施設や名所をマップに落として紹介し、評価を得ている。来年からは「ひまわり祭り」でもパンフを配っていく。これを受けて町商工課がパンフを平福などの道の駅等にも置いてくれることとなった。さらに、県が作るパンフレットに佐用町昆虫館を紹介するよう、働きかけてくれている。

#### ■佐用町教委によるバックアップ

懸案だった滑りやすい地面の改修工事が、ほぼ完成。後は、4月の開館前にこどもの通路を描くだけに。また、昆虫館内には高価な図書類や、貴重な資料が保管されているが、すぐ横を寺谷川が流れ樹木が生い茂っていることから湿度が高く、カビが繁殖するなど、当初から適切な保管場所が切望されていた。中三河の町づくりセンター2階にスペースを確保していただき、町民の財産を守れることになり、スタッフ一同、胸を撫で下ろしている。さらに懸案だった、園庭

内で枯死したり、ヒョロリと伸びた樹木の伐採、または剪定の予算化が進められている。残るは町議会の理解を得るだけの段階に来ている。実現する可能性は80%程度か。可決すれば4月以降に森林組合が作業に当たってくれる。

佐用町昆虫館の発展は、NPOと地域の皆様、そして行政の協力関係なくしてありえない。今年のバックアップが、来年からの新たな発展につながることを確信している。

(三木)

#### 佐用町昆虫館の利用者数等

月	開館利用			閉館時利用			講座等			総計		
	開館日数	記帳者数	スタッフ数	日数	人数	スタッフ数	件数	人数	スタッフ数	一般	スタッフ	合計
4	10	346	40							346	40	386
5	14	646	51				1	26	6	672	57	729
6	8	389	25	1	28	1	1	21	7	438	33	471
7	11	1214	36	1	32	1	1	26	5	1272	42	1314
8	12	1184	48							1184	48	1232
9	10	468	26	1	8	1	1	26	4	502	31	533
10	11	337	47				1	27	4	364	31	395
計	76	4584	273	3	68	3	5	126	26	4778	282	5060

#### C-2 第7期佐用町昆虫館こども昆虫道場

こども昆虫道場は「ほんものたいけん」をスローガンに、実際に昆虫の採集をして観察する講座です。

平成28年で第7期目になります。5月から10月の月1回（8月はお休み）、5回セットの講座を開催しました。参加費は¥1,500です。参加者の反応は良好でした。

(金子)

実施日時	場所	参加者数	スタッフ数
5月15日	佐用町昆虫館	13	6
6月12日	佐用町昆虫館	10	7
7月31日	佐用町昆虫館	11	5
9月11日	佐用町昆虫館	11	4
10月16日	佐用町昆虫館	9	4

スタッフ数は講師含む



## D 管理運営

### D-1 むしのお話五つ星レストラン

#### 第5回むしのお話し五つ星レストラン

日時：2017年4月30日 10時より17時 その後懇親会

場所：神戸大学滝川記念館

主催 NPO 法人こもともむしの会

共催 神戸大学農学部昆虫科学グループ、兵庫県立人と自然の博物館 後援 神戸市教育委員会



#### 講演会（2F 大会議室）演題および演者

「アリに化けるクモのお話—擬態が生み出す生物多様性」橋本 佳明（兵庫県人と自然の博物館）

「マユって何だ？～不思議なマユ物語」三田村 敏正（福島県）

「ミツバチが花を見つける方法」佐倉 緑（神戸大学理学部）

「きのこ昆虫の戦い：虫から生えるきのこ冬虫夏草のふしぎ」佐藤 大樹（森林総研）

「舐（な）め触（さわっ）て虫が感じる！！」尾崎 まみこ（神戸大学理学部）

「虫の不思議なカタチの話」高見 康興（神戸大学発達科学部）

「レントゲンで見る虫のからだのひみつ」櫛引 敬嗣（島津製作所）



#### 展示等（1Fロビー・玄関周辺）

蝉風（相坂耕作）、工作「カードで作るバランス蝶」（加茂隆弘）、昆虫切り紙細工（石川 進一朗親子）

標本展示「世界の蝶」（高橋耕二）、「世界の甲虫」（藤居親子）、移動展示「赤松の郷 昆虫文化館」

こんちゅう3D写真（清水哲哉）、むしのおえかき作品展（神戸市立桃山台児童館学童保育クラブ）

カヤの中で虫と遊ぼう生き虫体験（吉岡朋子さんとテネラルの青年たち）、神戸大学ジャグリング部

【参加者】約300人（記帳者 子ども90人・大人136人）

【講師】7人【展示出展者】7人【ジャグロク】4人（神戸大学ジャグリングサークル）

【スタッフ】23人（むしの会9人・テネラル7人・神戸大2人・ほか5人）



例年に引き続き4月29日に演者ら6人を上郡野昆虫文化館、平福界限、佐用町昆虫館に案内し、昆虫館より大江君を載せて神戸に戻りました。

会計と場所の手配、前日の運転、懇親会手配等は河村さん（一部前藤さん）にお願いしました。昆虫文化館からの資料の運搬等については近藤さん、チラシ作成と配布については金子さん、河村さん吉岡さんにお願いしました。新聞社は読売と毎日。神戸と朝日は記事を確認していません。挨拶、八田さん、近藤さん、前藤さんにお願いしました。懇親会司会は吉岡さんです。（竹田）

### D-2 管理運営

- ・正会員42名、法人賛助会員1団体、家族会員2名（460,000円）
- ・寄付金 148,000円（日当寄付、過年度会費等）
- ・理事会、総会、役員会を開催した。